

引用文献

- 阿部 順子 (2011). 高次脳機能障害者の障害認識とその変容過程：当事者の語りから 総合リハビリテーション, 39(3), 273-281.
- 阿部 ゆり (2011). 患者心理の理解に向けて：行動に見守りが必要な患者へインタビューを行って 日本リハビリテーション看護学会学術大会集録, 23, 77-79.
- 荒牧 ゆかり (2020). 高次脳機能障害のある患者への看護師の意識変化：CBA カンファレンスを用いた事例. 日本看護学会論文集: 慢性期看護, 50, 206-209.
- 麻原 きよみ (2016 a). II質的研究の基礎：2 質的研究のプロセス グレック 美鈴・麻原 きよみ・横山 美江(編著) よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 第2版：看護研究のエキスパートをめざして (pp. 29-41) 医歯薬出版
- 麻原 きよみ (2016 b). IV主な質的研究と研究手法：[3]エスノグラフィー グレック 美鈴・麻原 きよみ・横山 美江(編著) よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 第2版：看護研究のエキスパートをめざして (pp. 99-119) 医歯薬出版
- Blumer, H. (1969/1991). Symbolic Interactionism: Perspective and Method. (ブルーマー, H. 後藤 将之 (訳) (1991). シンボリック相互作用論：パースペクティブと方法 勁草書房)
- Caeiro, L., Ferro, J. M., & Costa, J. (2013). Apathy secondary to stroke: a systematic review and meta-analysis. *Cerebrovascular Diseases*, 35(1), 23-39.
- Centers for Disease Control and Prevention. (2015). Report to congress on traumatic brain injury in the United States: Epidemiology and Rehabilitation [web site]. Retrieved January 20, 2023, from https://www.cdc.gov/traumaticbraininjury/pubs/congress_epi_rehab.html
- 江口 みのり・高島 理沙・坂上 真理・村田 和香 (2019). 脳卒中後の高次脳機能障害者が就労継続に至るまでのプロセス 作業療法の実践と科学, 1(2), 23-31.
- Fraas, M. R., Calvert, M. (2009). The use of narratives to identify characteristics leading to a productive life following acquired brain injury. *American Journal of Speech-Language Pathology*, 18(4), 315-328.
- 深川 和利 (2014). 序章 高次脳機能障害？困惑するあなたへ 深川 和利(監) 高次脳機能障害の標準看護計画：NANDA-Iの看護診断にもとづく (pp. 2-41) メディカ出版
- 福井 圀彦・藤田 勉・宮坂 元麿 (2009). I脳卒中治療の流れ 福井 圀彦・藤田 勉・宮坂 元麿(編) 脳卒中最前線：急性期の診断からリハビリテーションまで 第4版 (pp. 2-5) 医

歯葉出版

- 船津 衛 (1976). シンボリック相互作用論 (pp. 72-73) 恒星社厚生閣
- 船津 衛 (1995). 第 1 章 シンボリック相互作用論の特質 船津 衛・宝月 誠 (編) シンボリック相互作用論の世界 (pp.3-13) 恒星社厚生閣
- 蜂須賀 研二・加藤 徳明・岩永 勝・岡崎 哲也 (2011). 日本の高次脳機能障害発症者数 高次脳機能研究, 31(2), 143-150.
- 原田 憲一 (2011). 通過症候群 精神医学, 53(5), 503-505.
- 林 眞帆 (2014). 高次脳機能障害者の社会生活上で生じる「生活のしづらさ」がもつ意味に関する研究：ソーシャルワークにおける働きかけの焦点の明確化 社会福祉学, 55(2), 54-65.
- 林 眞帆 (2015). ソーシャルワークにおける高次脳機能障害のある人の対象認識に関する研究：<受容なきままの覚悟> をもって生きる存在 社会福祉学, 56(2), 63-74.
- 日坂 ゆかり・南川 貴子・田村 綾子 (2016). 急性期脳卒中患者の心理・経験・体験に関する研究の現状と今後の課題 日本ニューロサイエンス看護学会誌, 3(2), 85-92.
- 宝月 誠 (1995). 第 12 章 シンボリック相互作用論の方法論的基礎 船津 衛・宝月 誠 (編), シンボリック相互作用論の世界 (pp. 135-144) 恒星社厚生閣
- Hyder, A. A., Wunderlich, C. A., Puvanachandra, P., Gururaj, G., & Kobusingye, O. C. (2007). The impact of traumatic brain injuries: a global perspective. *Neuro Rehabilitation*, 22(5), 341-353.
- 池松 裕子 (2011). 第 1 章 急性期にある患者の看護 森田 夏実・大西 和子 (編) 臨床看護学叢書 2：経過別看護第 2 版 (pp. 38-39) メヂカルフレンド社
- 石元 美知子・和田 寿美・瓜生 浩子 (2020). 高次脳機能障害をもつ当事者の視点からみた社会適応 高知リハビリテーション専門職大学紀要, 1, 9-15.
- 板垣 喜代子・木村 綾子・渡部 菜穂子・福士 理沙子・浅田 一彦 (2021). レクリエーションが高次脳機能障害にもたらす効果に関する文献レビュー 弘前医療福祉大学弘前医療福祉大学短期大学部紀要, 2(1), 25-37.
- 自賠責保険における高次脳機能障害認定システム検討委員会 (2018). 「自賠責保険における高次脳機能障害認定システムの充実について」(報告書)
https://www.giroj.or.jp/cali_survey/pdf/brain_detail_201805.pdf#view=fitV (検索日: 2023 年 1 月 20 日)
- 垣内 香里・若林 望嘉・中山 良子・森 みずほ (2012). 復職を目指す高次脳機能障害患者を

- 受け持つ看護師が感じている困難さの様相 日本リハビリテーション看護学会誌, 2(1), 3-10.
- 加藤 侑哉・成澤 あゆみ・刈部 博・亀山 元信・富永悌二 (2019). 重症頭部外傷における年齢構成の推移：頭部外傷データベース [プロジェクト 1998, 2004, 2009, 2015] の変遷 神経外傷, 42(2), 160-167. https://doi.org/10.32187/neurotraumatology.42.2_160
- 警察庁 (2017). 平成 28 年中の交通事故死者数について [ウェブサイト].
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00130002&tstat=00001032793&cycle=7&year=20160&month=0&tclass1val=0> (検索日: 2023 年 1 月 20 日)
- 木下 康仁 (2020). 定本 M-GTA:実践の理論化をめざす質的研究方法論 (pp. 295-298) 医学書院
- 小泉 香織・八重田 淳 (2017) 【復職支援の最前線】働く高次脳機能障害者の声：質的研究 職業リハビリテーション, 30(2), 47-56.
- 近藤 早紀・二井谷 真由美 (2015). 回復期にある高次脳機能障害者を受け持つ看護師の困難感 BRAIN NURSING 2015, 31(1), 102-111.
- 厚生労働省 (2018). 図表 1-2-4 脳血管疾患患者数の状況 [ウェブサイト].
<https://www.mhlw.go.jp/stf/wp/hakusyo/kousei/18/backdata/01-01-02-04.html> (検索日: 2023 年 1 月 20 日)
- 国立障害者リハビリテーションセンター (2004). 高次脳機能障害を理解する [ウェブサイト]. http://www.rehab.go.jp/brain_fukyu/rikai/ (検索日:2023 年 1 月 20 日)
- 高次脳機能障害全国実態調査委員会 (2016). 高次脳機能障害全国実態調査報告 高次脳機能研究, 36(4), 492-502.
- Kumlien, S., & Axelsson, K. (2000). The nursing care of stroke patients in nursing homes. Nurses' descriptions and experiences relating to cognition and mood. *Journal of Clinical Nursing*, 9(4), 489-497. <https://doi.org/10.1046/j.1365-2702.2000.00412.x>
- グレッグ 美鈴 (2016). IV 主な質的研究と研究手法 [1] 質的記述的研究 グレッグ 美鈴・麻原 きよみ・横山 美江 (編著) よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 第2版：看護研究のエキスパートをめざして (pp. 64-84) 医歯薬出版
- Kutzleb, J., Parietti, E., & Guttman, M. S. (2012). Reducing bedside sitters in traumatic brain injury patients: an evidence-based project. *UPNAAI Nursing Journal*, 8(1), 36-41.
- 森 達郎・平山 晃康 (2009). Part2 脳神経疾患の理解 Chapter4 頭部外傷 落合 慈之(監)

- 脳神経疾患ビジュアルブック(pp.158-162) 学研メディカル秀潤社
- 長島 緑・藤田 和弘 (2004). 高次脳機能障害患者における尿失禁の関連要因の検討 日本看護学会論文集：成人看護II, (34), 314-316.
- 長島 緑 (2019). 高次脳機能障害ケアプログラム開発に関する研究 中部学院大学大学院人間福祉学研究科博士論文 (未公刊)
- https://chubu-gu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=483&item_no=1&page_id=13&block_id=21(検索日:2023年1月20日)
- 中島 八十一 (2006 a). 第1章 高次脳機能障害の現状と診断基準 中島 八十一・寺島 彰 (編) 高次脳機能障害ハンドブック：診断・評価から自立支援まで (pp. 3-4). 医学書院
- 中島 八十一 (2006 b). 高次脳機能障害支援モデル事業について 高次脳機能研究, 26(3), 263-273.
- 日本看護科学学会. 看護学学術用語検討委員会 (n.d.). JANSpedia：看護学を構成する重要な用語集. 基本的欲求 [ウェブサイト].
- <https://scientific-nursing-terminology.org/terms/basic-human-needs/>(2023年1月20日閲覧)
- 認知症疾患診療ガイドライン (2017). 第1章 認知症全般：疫学、定義、用語
- https://www.neurology-jp.org/guidelinem/degl/degl_2017_01.pdf(検索日:2023年1月20日)
- 西山 涼子・植松 高寧・田中 貴代子・小林 明美 (2004). 脳血管障害による高次脳機能障害と排尿行為確立との関連性の検討：カルテ記載内容からの分析 日本リハビリテーション看護学会学術大会集録, 16回, 25-27.
- Nochi, M. (1998). “Loss of self” in the narratives of people with traumatic brain injuries: A qualitative analysis. *Social Science & Medicine*, 46(7), 869-878.
- 小田 博志 (2010). エスノグラフィー入門：〈現場〉を質的研究する (pp. 5-8) 春秋社
- 岡村 陽子・武藤 かおり (2014). 高次脳機能障害者のセルフアウェアネスと心理的ストレスの関連の検討 専修人間科学論集(心理学篇), 4(1), 1-9.
- Oyesanya, T. O., Bowers, B. J., Royer, H. R., & Turkstra, L. S. (2018). Nurses’ concerns about caring for patients with acute and chronic traumatic brain injury. *Journal of Clinical Nursing*, 27(7-8), 1408-1419.

- Rao, V., Bertrand, M., Rosenberg, P., Makley, M., Schretlen, D. J., Brandt, J., & Mielke, M. M. (2010). Predictors of new-onset depression after mild traumatic brain injury. *The Journal of Neuropsychiatry and Clinical Neurosciences*, 22(1), 100-104.
<https://doi.org/10.1176/appi.neuropsych.22.1.100>
- Roper, J. M. (2000/2003). 麻原 きよみ, グレググ 美鈴 (訳), 看護における質的研究①: エスノグラフィー (pp. 1-12). 日本看護協会出版会.
- Ruttan, L., Martin, K., Liu, A., Colella, B., & Green, R. E. (2008). Long-term cognitive outcome in moderate to severe traumatic brain injury: a meta-analysis examining timed and untimed tests at 1 and 4.5 or more years after injury. *Archives of Physical Medicine and Rehabilitation*, 89(12), S69-S76. <https://doi.org/10.1016/j.apmr.2008.07.007>
- 佐藤 由紀子・山崎 智子・内堀 真弓・大木 正隆・本田 彰子 (2011). 神経膠腫の外科的治療後に高次脳機能障害を有した患者の生活の再編成 日本がん看護学会誌, 25(1), 5-13.
- 澤田 知里・山田 律子 (2020). 急性期病院における認知障害高齢者の転倒に繋がりを行動とその背景にあるニーズ:入院1週間に焦点を当てたせん妄発症の有無による分析 老年看護学, 25(1), 45-56.
- 史慧玲, 张敏, 汪梦月, 盛少婷, 刘草梅, & 蒋园园. (2021). 脑卒中后认知障碍病人筛查与管理最佳 证据总结. *Chinese Nursing Research*, 35(8), 1346-1352.
<https://doi.org/10.12102/j.issn.1009-6493.2021.08.005>
- 霜島 八重子・今屋 哉子・櫻井 紀子 (2006). 脳血管障害患者における転倒転落アセスメントスコアの実態調査: 認識力項目に着目した分析より 日本看護学会論文集: 看護総合, (37), 424-426.
- Shimomura, A. (2010). Evaluating the consultation by a Certified Nurse Specialist (CNS) in stroke rehabilitation nursing: Consultation on social behavior deficits in patients with higher cortical dysfunction. *Journal of the Tsuruma Health Science Society, Kanazawa University*, 34(2), 77-89.
- Spradley, J. P. (1980). Participant observation. (スプラッドリー, J. P 田中 美恵子・麻原 きよみ (訳) (2010). 参加観察法入門 (pp. 6-12) 医学書院)
- Sun, J. H., Tan, L., & Yu, J. T. (2014). Post-stroke cognitive impairment: epidemiology, mechanisms and management. *Annals of Translational Medicine*, 2(8).
- 鈴木 千佳代 (2017). 急性期一般病棟におけるスタッフの高次脳機能障害患者のケアへの思

- い 聖隷浜松病院医学雑誌, 17(2), 33-38.
- 鈴木 千佳代 (2018). "語り"を活かした介入がもたらした高次脳機能障害患者への看護師の意識変化 聖隷浜松病院医学雑誌, 18(1), 14-20.
- Tang, E. Y. H., Price, C., Stephan, B. C. M., Robinson, L., & Exley, C. (2019). Post-stroke memory deficits and barriers to seeking help: views of patients and carers. *Family Practice*, 36(4), 506-510. <https://doi.org/10.1093/fampra/cmy109>
- Tang, E. Y. H., Price, C., Stephan, B. C. M., Robinson, L., & Exley, C. (2020). Impact of Memory Problems Post-stroke on Patients and Their Family Carers: A Qualitative Study. *Frontiers in Medicine*, 7, 267. <https://doi.org/10.3389/fmed.2020.00267>
- 立神 粧子 (2006). 治療体験記：ニューヨーク大学医療センター・ラスク研究所における脳損傷者通院プログラム 「脳損傷者通院プログラム」 における前頭葉障害の定義(前編) 総合リハビリテーション, 34(5), 487-492.
- 東京都高次脳機能障害者実態調査検討委員会 (2008). 高次脳機能障害者実態調査報告書：概要版
<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/joho/soshiki/syougai/seishiniryu/oshirase/kouji.files/gaiyou2.pdf> (検索日: 2023 年 1 月 20 日)
- 豊田 一則・中井 陸運. (2021). 3. 日本脳卒中データバンク：17万例の臨床情報解析結果 国循環脳卒中データバンク 2021 編集委員会(編) 脳卒中データバンク 2021 (pp. 20-27) 中山書店
- 浦上 裕子 (2016). 第 2 章 症状 飛松 好子・浦上 裕子 (編) 国立障害者リハビリテーションセンター 社会復帰をめざす高次脳機能障害リハビリテーション (pp. 23-68) 南江堂
- Veltman, R. H., VanDongen, S., Jones, S., Buechler, C. M., & Blostein, P. (1993). Cognitive screening in mild brain injury. *The Journal of Neuroscience Nursing : Journal of the American Association of Neuroscience Nurses*, 25(6), 367-371.
<https://doi.org/10.1097/01376517-199312000-00008>
- 若林 望嘉・垣内 香里・森 みずほ・中山 良子 (2010). 復職を目指す高次脳機能障害患者を受け持つ看護師の困難感の構造化 日本リハビリテーション看護学会学術大会集録, 22 回, 157-160.
- 渡邊 雅英・石田 英子・松下 郁実・岩本 知絵 (2009). 高次脳機能障害患者の初回外泊時の

- 主介護者の不安の実態と関連要因 日本看護学会論文集：成人看護II, (39), 220-222.
- 渡邊 雅英 (2011). 高次脳機能障害患者の家族指導に関する重要度の認識と実践度の関連神
奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録：教員・教育担当者養成課
程看護コース, (36), 309-316.
- 渡邊 芽紅・中島 沙弥香・村松 倫子 (2015). 急性期病棟看護師の高次脳機能障害に対する
認識：質問紙調査報告 福井医療科学雑誌, 12, 81-84.
- Watts, D. D., Gibbons, S., & Kurzweil, D. (2011). Mild traumatic brain injury: A survey of perceived
knowledge and learning preferences of military and civilian nurses. *Journal of Neuroscience
Nursing*, 43(3), 122-129.
- World health organization regional office for the Eastern Mediterranean. (n. d.). Stroke,
Cerebrovascular accident [web site]. Retrieved January 20, 2023, from
<http://www.emro.who.int/health-topics/stroke-cerebrovascular-accident/index.html>
- 山田 規畝子 (2004). 壊れた脳 生存する知 講談社
- Yuyan, H., Bo, P., Yingyi, C., Houqiang, H., & Silin, Z. (2020). Summary of best evidences for
management of post-stroke cognitive impairment. *Chinese Nursing Research*, (21), 3752-3758.
<https://doi.org/10.12102/j.issn.1009-6493.2020.21.002>
- Zhang, L., Zhang, T., & Sun, Y. (2019). A newly designed intensive caregiver education program
reduces cognitive impairment, anxiety, and depression in patients with acute ischemic stroke.
Brazilian Journal of Medical and Biological Research, 52(9). [https://doi:
10.1590/1414-431X20198533](https://doi:10.1590/1414-431X20198533)